

いきる つながる みちひらく

～ 自立と連携 共生の学びと教育 ～



発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 福山香織
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2024/12-1

No. 2106

第74次兵庫県教育研究集会 分科会のようす
・能登半島北部豪雨災害連合救援ボランティア

ひょうご教育フェスティバル 第74次兵庫県教育研究集会

10月27日、神戸新聞松方ホールでプレフェスティバルとして子どもと親の劇場を開催した。11月9日は、神戸市立こうべ小学校・山の手小学校の2会場で分科会をおこない、参加者からのレポート報告をもとに、子どもの実態をもとにした実践の交流や、活発な討議がおこなわれた。

11月10日は、神戸市立西区文化センター(なでしこホール)とオンラインにて全体会を開催した。(左記参照)



教育シンポジウムの様子



展示・体験コーナーの様子



分科会 (こうべ小学校)



分科会 (山の手小学校)

子どもたちが本物の舞台を経験できる貴重な機会となった。

全体会

主催者を代表して、森戸卓也兵庫県教育文化研究所所長・兵庫県教職員組合中央執行委員長よりあいさつがあり、関係者各位に感謝の意を述べた。(要旨)

教育シンポジウム

コーディネーターに大森直樹さん(防災教育部会協力研究所員)、シンポジストに永田守さん(菅屋・元教員)、三村理加さん(EARTH員、姫路・養護教員)、白石草さん(ビデオジャーナリスト)を招き、「子どもと災害にどう向き合うか」と題して2030年に巨大地震が起きたら?と題したディスカッションがおこなわれた。

今回のシンポジウムでは、1995年と2011年、そして2024年に起きた3つの災害をもとに、大都市直下型の震災、地震と津波・原発事故の複合災害、過疎化した地域での震災、これらの可能性を考慮に入れ「子どもと教職員は災害にどう向き合うのか」



森戸中央執行委員長

私たちが掲げる教育研究活動のメインテーマ「いきる つながる みちひらく」自立と連携 共生の学びと教育」には、子どもたちの生きる力を育みたい、ともに生きる社会を具現化したい、そして子どもたちが夢や希望をもてる教育を創造していきたいという願いが込められている。

について参加者全員で考え、共有する場となった。(詳細は別号で)

分科会

「子どもを中心にすえたわかる授業、楽しい学校づくり」として11分科会、「地域と手をたずさえて 子ども・保護者の願う教育改革」として12分科会、そして特別分科会「生きる力を育む教育」の計24分科会が構成し、分会から地域教研へと積み上げてきた教育実践を交流した。

展示・体験コーナー

5年ぶりに実施した展示・体験コーナーでは、「防災・減災」をテーマに、「能登半島地震多言語放送パネル展」、「防災絵本を読んでみよう!」、「出張「震災資料室」AR・VRで体験



「社会的対話」の必要性と「兵庫の防災・減災教育」について

「兵教組第6次提言」をふまえ、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会を実現するため、子どもの権利条約の採択から35年、日本での批准から30年にあたるこの期に、「子どもたちの最善の利益の保障」の具現化にむけて、すべての子どもたちに寄り添い、保護者や地域・教育行政とつながり、「社会的対話」をすすめていく必要がある。防災・減災教育をテーマにしたコーナーを12か所設置し、子どもも大人も楽しみながら参加できる「地域の方々とともに学ぶ開かれた教研」となることを願っている。

(一財) 兵庫県学校厚生会の団体扱自動車保険なら

大口団体割引率 18.5%適用!!

TOUGH タフ・見守るクルマの保険プラス(ドラレコ型)

事故時には事故映像を当社へ自動送信!
ドライブレコーダーを通じて専任オペレーターと通話が可能!

当社オリジナルのドライブレコーダーだからこそ実現できる、高度な事故対応
テレマティクス損害サービス

月々 +650円

事故映像をAIで解析し、相手車両の速度等の事故状況を把握!

【注1】本商品にセットされる「ドライブレコーダーによる事故発生時の通知等に関する特約」の特約保険料(保険期間1年の場合の口座振替12回分の保険料)です。なお、団体扱・集約扱12回分の場合は月々620円となり、保険期間が1年を超える場合や支払方法が異なる場合は、上記の特約保険料とは異なります。また、大口団体割引は適用されません。
【注2】本商品は、「タフ・クルマの保険」と異なる保険料水準を適用しているため、上記の特約保険料が本商品と「タフ・クルマの保険」の保険料差額にはなりません。

※1 本サービスは事故時の責任割合が必ず有利になることをお約束するものではありません。
※2 AIが解析した相手車両の速度等のデータ(参考値)は通信環境・天候・事故の状況等により、事故対応に活用できない場合があります。

【取扱代理店】
一般財団法人 兵庫県学校厚生会
見積もり受付センター
0120-16-6262

【引受保険会社】
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
三井住友海上火災保険(株)

大口団体割引18.5%は、2024年12月1日～2025年11月30日の間に始期日を有するご契約に適用されます。割引率はその団体のご契約台数と損害率をもとに毎年見直しされます。※団体扱でご契約いただける条件については厚生会までお問い合わせください(条件によって団体扱ができない場合があります)。

●左記「タフ・見守るクルマの保険プラス(ドラレコ型)」はあいおいニッセイ同和損害保険(株)の商品です。
●この内容は概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ず各社商品パンフレットおよび「重要事項のご説明」を合わせてご覧ください。また、詳しくは「ご契約のしおり(普通保険約款・特約)」をご用意しておりますので、取扱代理店または引受保険会社までご連絡ください。ご不明な点につきましては取扱代理店または引受保険会社にお問い合わせください。

第74次兵庫県教育研究集会

11月9日

分科会のように

分科会の様子を、アンケートから抜粋してお伝えします。

1 日本語教育

「話す・聞く・伝え合う力」の指導について等。

【参加者感想】

- ・多くの学校のレポートを拝見し、大変実りある学びをいただいた。学びを持ち帰り、自らの実践に生かしたい。
- ・要約や音読、読書、読み聞かせなどと関連した授業づくりのイメージが更新された。

2 外国語教育

外国語を通しての平和・人権・多文化共生を追求する実践のあり方等。

【参加者感想】

- ・初めて参加したが、他地区でのとりくみが聞けて大変勉強になった。
- ・小学校と中学校どちらのレポート報告も聞くことができ、ICTの活用や、国際交流の活動、AIの役割などについて、今後の指導に生かしていきたいと思った。



3 社会科教育

子どもたちが主体的に活動し、思考を深める授業の創造等。

【参加者感想】

- ・これまで自分になかった視点や柔軟な考え方、物の見方を知ることができ、新たな視点や価値観が形成された。
- ・若い方の研究に対する楽しそうな姿を見て、エネルギーをもらった。

5 理科教育

子どもが主体的な探究に動き出し、科学的思考力を深める授業づくり等。

【参加者感想】

- ・各校の実践や、研究の様子について聞くことができ、自分も取り入れたいと思った。特に動物の性をもとに、人間の性スベクトラムも2つのみではなく、その間の部分があり、人によってどこに位置するかなどは異なる、という話に驚いた。自分が「性」についての学習をすすめる際には、今回聞いた話も取り入れて授業をしたいと思った。

8 技術・家庭科教育

持続可能な社会の実現にむけて工夫・創造する能力の育成等。

【参加者感想】

- ・AIと技術家庭科のむき合いが一番印象に残った。発想を促す授業をおこなうことが一番だと考えているが、子どもの発想のヒントとなるAIは活用の仕方次第だと感じた。

11 自治的諸活動と生活指導(小・中)

自治の力をどう高めているか(子どもの参画による主体的な学校づくりと「子どもの権利条約」等)。

【参加者感想】

- ・子どもの主体的な活動をどう引き出しているか、「教員側の善意の主導になっていないか」という言葉が印象に残った。

15 国際連帯・多文化共生の教育

あった。

ゆたかな世界認識に支えられた教育をどう創造するか等。

【参加者感想】

- ・現場で手探りしつつ、校内や外部と連携し工夫しながら外国につながるの子ども、そしてすべての子どものために取り組んでいることがわかった。それでも学校だけでは限界に来ていて、社会全体で考えとりくんでいかなければならない課題であると思った。

18 平和教育

地域に学ぶ・地域と学ぶ平和学習等。

【参加者感想】

- ・広島に関わる人が平和に関わって活動していることが多いのは、広島が平和教育や今までの経験の影響だと思いが、兵庫でこんなに熱心に平和教育について議論できるのは本当に素敵である。仲間がたくさんいることが実感でき、嬉しかった。

21 教育課程

教育改革としての教育課程づくりをどのようにすすめているか等。

【参加者感想】

- ・教育課程ということで、時間割やカリキュラムについてのレポート内容だけでなく、道徳の実践やICTの活用など多岐にわたっていて、様々な取り組みを知る良い機会となった。今後の実践にかاشしていきたい。

22 学校・地域における教育条件整備運動

学校・保護者・地域住民が連携した子どもたちの安心・安全を守る教育条件整備の拡充をどのようにすすめるか等。

【参加者感想】

- ・仕事をしながらでも、自分も生きる力とは何か、教職員として子どもたちにできることは何か、問い続けながら子どもたちと一緒に学び続けたい。

23 教育条件整備の運動

学校・保護者・地域住民が連携した子どもたちの安心・安全を守る教育条件整備の拡充をどのようにすすめるか等。

【参加者感想】

- ・実践例を中心に、自校における防災教育のヒントをたくさん得た。皆さんの実践から学ぶことができ、とても刺激的だった。明日からいかにしたいことばかりで、私も自身も生きる力とは何か、教職員として子どもたちにできることは何か、問い続けながら子どもたちと一緒に学び続けたい。

4 算数・数学教育

主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業づくり等。

【参加者感想】

- ・学校によって様々なとりくみの工夫があることに驚いた。前半ではデジタル教材を使う、自由進度形式の授業など最新の考え方、自分の授業への反省となった。後半は今ある授業形態から授業者の工夫によって子どもにやる気や価値を見出すものが多く大変勉強になった。

6 美術教育

子どもたちが思いを表現できる学習をどうつくるか等。

【参加者感想】

- ・これまで以上に充実した会であった。美術教育の現代的な課題に即応したものが多かった。
- ・他地区の図工・美術のとりくみや今現在の流れを感じる機会となった。

9 保健・体育

効果的な保健教育のすすめ方、自分の身体や体力に繋げられる研究をしていきたいと感じた。授業者自身も意識を持った中で教材研究・授業実践・ふり返り等を大事にしていかなければならぬ。

【参加者感想】

- ・これからの授業改善や、より子どもたちの成長に繋げられる研究をしていきたいと感じた。授業者自身も意識を持った中で教材研究・授業実践・ふり返り等を大事にしていかなければならぬ。

10 総合学習

予測困難な中、多様なアプローチにより探究を創造する総合学習の「未来」等。

【参加者感想】

- ・様々な総合学習のとりくみや視点を学ぶことができ、勉強になった。
- ・地域「ふるさと」のことを学ぶ大切さを、改めて理解した。

12 幼年期の教育と保育問題

子どもの発達や学びの連続性をつなげる連携のあり方について等。

【参加者感想】

- ・例年以上に幼児教育・就学前教育に関する議論ができた。
- ・幼稚園やこども園からの視点で、今まで気づいていないことが多く新鮮だった。

16 ジェンダー平等教育

革等。

【参加者感想】

- ・新たな学びがあると同時に、ジェンダー平等についてアンテナを高くしようと思った。また、トランスジェンダーの子どもとその保護者と話ができたのは、貴重な経験であった。

17 環境・公書・食教育

身近な環境を見つめ、SDGsと関連づけた持続可能な社会の創造にむけて、系統的なカリキュラムの作成や指導の工夫にどのようなとりくみでいくか等。

【参加者感想】

- ・地域、ふるさと、学校給食等について様々なエピソードが聞け、温かい雰囲気の中で勉強することができた。共同研究者から、栄養教員の歴史についての話を聞き、涙が出た。先輩方のご苦労を無駄にしたいけない、後輩に伝えていきたいと思ひ、頑張る力をいただいた。

19 メディア・リテラシー教育と文化活動

メディアを通じた間接体験や疑似体験が多い中で、子どもたちの感性や平和・人権感覚を高めるためにどのようにとりくんでいくか等。

【参加者感想】

- ・書籍やネット端末だけでなく、人間もメディアであるというのが、大変印象的であつた。また、それらを大切にする授業づくり、子どもとの関係づくり(学級経営)、ひいては生活指導が大切だと感じた。

20 評価・選抜制度と進路保障

すべての希望する生徒に高校教育を保障し、受験競争の緩和、学校間格差の解消にむけて、地域の高校づくりをどうすすめるか等。

【参加者感想】

- ・どの地区も学力保障が課題となっており、地域の特色に応じた授業や学習のとりくみをしていることがわかった。本校でも検討したいと思う内容がたくさんあった。

22 学校・地域における教育条件整備運動

学校・地域の連携を問いつけて一生懸命であるのは変わらないが、お互いがお互いに遠慮して悩んでいると、ジレンマを感じた。腹を割って話し合うというのは、学校側はハードルが高く感じるが、お互いにリスペクト

【参加者感想】

- ・仕事をしながらでも、自分も生きる力とは何か、教職員として子どもたちにできることは何か、問い続けながら子どもたちと一緒に学び続けたい。

23 教育条件整備の運動

学校・保護者・地域住民が連携した子どもたちの安心・安全を守る教育条件整備の拡充をどのようにすすめるか等。

【参加者感想】

- ・実践例を中心に、自校における防災教育のヒントをたくさん得た。皆さんの実践から学ぶことができ、とても刺激的だった。明日からいかにしたいことばかりで、私も自身も生きる力とは何か、教職員として子どもたちにできることは何か、問い続けながら子どもたちと一緒に学び続けたい。

能登半島北部 豪雨災害

連合救援ボランティア派遣!



前有香さん(神戸)

今回の支援活動では、10人のチームで個人宅に伺い、ご希望を伺いながら地震の後に見舞われた水害被害の片付けをした。主に家具を出す、泥や土砂を土のう袋に詰める、それらを集積場に運ぶなどである。

私は、阪神・淡路大震災で日本中の皆さんに助けられた。その後、凶工科の教員として防災学習や、被災地を訪れ語り部活動などにあったが、災害直後の場所でのスコップを持つことは初めてであった。男性と同じ力仕事はできなかったが、できることを探した。

輪島塗の工房では、高額のお椀が破壊され、家族のアルバムが泥にまみれていた。依頼主は私たちを待ち望まれていて、活動を大変喜んでくださった。

私はこの活動を通して、皆さんに元気を届けたいと思っていたが、私も元気を貰えた。それは依頼主からの心からの「ありがとう」の言葉と、ともに働いたチームの関わり合いの中から得られた元気である。自然災害の恐ろしさを目の当たりにし、微々たる活動だったかもしれないが、年齢も職種も違う、初めて会った方と組んだチームで思いを一つに活動する中から、たくさん学ばせられた。ここに教育現場に必要な大切な宝物を見つけたように思う。

今回の支援活動では、10人のチームで個人宅に伺い、ご希望を伺いながら地震の後に見舞われた水害被害の片付けをした。主に家具を出す、泥や土砂を土のう袋に詰める、それらを集積場に運ぶなどである。

私は、阪神・淡路大震災で日本中の皆さんに助けられた。その後、凶工科の教員として防災学習や、被災地を訪れ語り部活動などにあったが、災害直後の場所でのスコップを持つことは初めてであった。男性と同じ力仕事はできなかったが、できることを探した。

輪島塗の工房では、高額のお椀が破壊され、家族のアルバムが泥にまみれていた。依頼主は私たちを待ち望まれていて、活動を大変喜んでくださった。

私はこの活動を通して、皆さんに元気を届けたいと思っていたが、私も元気を貰えた。それは依頼主からの心からの「ありがとう」の言葉と、ともに働いたチームの関わり合いの中から得られた元気である。自然災害の恐ろしさを目の当たりにし、微々たる活動だったかもしれないが、年齢も職種も違う、初めて会った方と組んだチームで思いを一つに活動する中から、たくさん学ばせられた。ここに教育現場に必要な大切な宝物を見つけたように思う。